

基本評価シート

様式

北海道 空知・雨竜区域

(北海道空知総合振興局保健環境部環境生活課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ）		
	令和4年度（2022年度）エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務（兩竜地域）		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	空知総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係
担当者名	押切 麻衣子	担当者連絡先	0126-20-0043
捕獲実施事業者	特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 （認定を受けている）	予算額（※2）	169,545,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	68,729,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和4年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
2 頭	0 頭	0 %

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
69万頭※ （個体数指数：東部124、北部113、中部163、南部358）	東部：R8末に個体数指数50以下（H23を100） 北部・中部：R13末に個体数指数50以下（H23を100） 南部：R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害）	許可捕獲（個体数調整）
34,118頭（R3）	29,806頭（R3）	77,437頭（R3）

※令和3年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、宗谷）、中部地域（石狩、胆振、日高）の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に3～15万頭の間と推定

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌ジカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。

2. 令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>第二種特定計画である「北海道エゾシカ管理計画」において、指定管理鳥獣捕獲等事業について「エゾシカによる生物多様性への影響や被害等が深刻又は懸念される地域においては、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲を必要に応じて計画的に実施する」としている。</p> <p>これに基づき、鳥獣保護区や自然公園など、市町村等による捕獲が困難な地域でエゾシカの捕獲を実施する。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乗せした。 <input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 <input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。 ※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<p><input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。</p>
実施期間	令和4年8月16日～令和4年11月30日(※委託期間)
実施区域	<p>雨竜地域（雨竜郡雨竜地域） [暑寒別天売焼尻国定公園、雨竜沼鳥獣保護区（特別保護地区を含む）]</p> <p>雨竜地域に位置する雨竜沼湿原は暑寒別天売焼尻国定公園内に所在し、雨竜沼鳥獣保護区に指定されている高層湿原帯である。湿原は標高約850mに所在し、エゾカンゾウをはじめとする約150種の植物が生息し、景勝地として多くの登山客が訪れるが、近年、エゾシカの侵入に伴って植物の食害が加速し、年々湿原内の花の確認数が減少している。また、同鳥獣保護区内に設置した自動撮影カメラや多くの植物の食痕、足跡等の形跡から、エゾシカが湿原内に生息していることを確認しており、このまま放置した場合は湿原内の植物の壊滅的被害が予想される。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入 ※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省北海道地方環境事務所：希少種等の情報提供や捕獲事業の情報共有を図る。 ・空知総合振興局森林室：道有林内で実施する際の入林等手続き及び捕獲事業の情報共有を図る。 ・(地独)北海道立総合研究機構：捕獲手法や分析等の助言など効果的な事業実施に向けた連携を図る。 ・地元市町村等：地域住民への連絡周知や地元関係機関との調整、捕獲事業の情報共有を図る。
事業の捕獲目標	<p>(0%達成) = (0 実績値) / (2 目標値)</p>
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input type="checkbox"/> 巻き狩り <input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟 <input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟 <input type="checkbox"/> その他 ()</p> <p>【わな猟】</p> <p><input type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな <input type="checkbox"/> その他 ()</p> <p>※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p><input type="checkbox"/> 個体の身体の一部（耳、尾など） <input type="checkbox"/> 写真（証拠写真は、捕獲者・捕獲個体・捕獲情報を記載したホワイトボード等を撮影することとし、またGPS機能付きのカメラ（スマートフォンを含む）で撮影し、データも併せて添付する。） <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 捕獲現場にて立会又は搬入確認 ）</p> <p>※複数チェック可。</p>

捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：常に監視を行い、他の鳥獣が囲いわなに侵入した際は、立ち去るまで待機を行う。） <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	<p>鉛製銃弾について</p> <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	<p>捕獲実施に先立ち、受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制、周辺住民等に対する周知体制、及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。</p> <p>捕獲事業の実施にあたっては、予め捕獲場所、実施期間、及び捕獲手法について市町村等関係機関と調整を行った。</p> <p>捕獲事業の実施期間は、捕獲事業者であることを明確にした上で、必要に応じ関係者以外の立ち入りを規制した。</p> <p>また、従事者のみならず、地域住民等の第三者の安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じた。特に、本業務は高地での捕獲であることから、事前に天候等の情報を入手し、移動時も含めて事故等の無いよう十分な装備と計画のもと実施させた。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】</p> <p>捕獲従事者数：6人 （内訳） 正規雇用者： 3人、期間雇用者： 人 日当制：3人</p>

3. 令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	<p>評価：捕獲目標数は達成できなかったが、登山客との棲み分けや錯誤捕獲の回避を理由として小型囲いわなを導入し直接観察による捕獲を行うことで9月後半から10月上旬にかけてのエゾシカの誘引状況や湿原内での行動を観察することができた。</p> <p>また、R3年度の実施計画策定等事業の調査では、餌にビートパルプペレットを使用しヒグマを寄せ付けたため、今年度はルーサンペレットを使用。その結果、ヒグマを寄せ付けずエゾシカの誘引に成功した。</p>

	<p>改善点：小型囲いわなによる捕獲では、捕獲実施日にエゾシカの出現はあったものの、囲いわなには入らなかった。なお、観察中に濃霧がかかり観察場所からの視界に支障をきたす状況や悪天候による視界不良が発生し捕獲に至らなかった。</p> <p>また、わな周辺に設置した自動撮影カメラからも9月下旬以降はエゾシカの出没が減少しており、捕獲機会が減少し成果を得られなかった。</p> <p>捕獲効率を向上させるためには、天候不良の場合は、日程を振り替えるなどの柔軟な捕獲スケジュールの確保及び捕獲回数の設定が望ましい。</p>
<p>【実施期間】</p>	<p>評価：通常閉山時期は10月スポーツの日翌日であるが、町役場と調整の結果、1週間前倒して閉山し、銃猟による捕獲を実施することができた。また、閉山についても事前に協議を行い、関係機関からの周知に加え周辺振興局や周辺の町役場へも協力を仰ぎ、安全確保を行った上で実施できた。</p> <p>改善点：過去のカメラ調査では、エゾシカの撮影頻度は6～8月に多く記録があるが、この時期は登山利用の最盛期であり銃猟で捕獲を行う上で登山客の安全確保が大きな課題であるため、実施時期は6月開山前又は10月の閉山後と期間が限られている。エゾシカを確実に捕獲するためには、捕獲時期を早め、6～8月の期間内に囲いわなで捕獲することが有効であると考えている。また、時期が遅くなるにつれ、寒暖差や不安定な天候などによる濃霧の発生で視界不良となりエゾシカが出没しても捕獲ができない状況が考えられるため、捕獲時期の前倒しが有効であると考えられる。</p>
<p>【実施区域】</p>	<p>評価：今年度初めて雨竜地域において捕獲事業を実施した。捕獲実施前に行った現地踏査では、7～8月の時点で湿原内におけるエゾカンゾウの被害が確認され、エゾシカの被害を受けていると判断でき、捕獲区域として適切だと判断できる。</p> <p>改善点：効率的な捕獲を行うという点では、捕獲個体の荷下ろしの問題があるため、多くの個体を捕獲することが難しい。そのため、GPS首輪装着により当該地域を利用しているエゾシカの季節的な移動経路を明らかにし、特定された越冬地において捕獲することが効率的だと考えられる。越冬地を特定後、その場所で捕獲を行うことで次年度からの雨竜沼湿原を利用するエゾシカの数が増え、植生被害も減少すると考えられる。植生への被害状況については、地元団体や研究機関に協力を仰ぎ、記録の推移を調査し効果検証する必要がある。</p>
<p>【捕獲手法】</p>	<p>評価：当該地域において、初めて捕獲事業を実施し、囲いわな及び銃猟による捕獲を実施した。</p> <p>囲いわなでは、囲いわな内に設置した自動撮影カメラにおいて、9月中旬にエゾシカ1頭が囲いわなの中へ誘引されている様子が撮影されている。そのため、小型の囲いわなへの誘引が可能であることが証明された。</p>

	<p>銃猟において、自動撮影カメラの記録では、9月下旬以降は撮影頻度が減少することがわかっている。しかし、直接観察では、銃猟の射程圏内に複数回エゾシカが入ったことや射程圏外ではあるが、出没を確認できるなど捕獲機会はわずかだがあることが明らかとなった。</p> <p>改善点：囲いわなにおいては、1度わなの中へ誘引されているがそれ以降は侵入した形跡がなかった。要因としては、雨竜沼湿原のエゾシカは他地域のエゾシカと比べ警戒心が強いという特性があるため、湿原に設置した囲いわなを警戒した可能性があり、わなを設置し、給餌を開始してからの期間は1ヶ月弱であったことが十分ではなかったと考えられる。そのため、囲いわなを設置する場合は、最低でも1ヶ月以上は慣らし期間を設ける必要がある。また、今回の囲いわな設置場所は、観察地点からの観察等の作業のしやすさや自動撮影カメラの記録の撮影頻度及びシカ道等を考慮して決定したが、木道に近いこともあり、今年度の観察記録の状況も踏まえ、設置場所の変更についても検討する余地があると考ええる。</p>
<p>2. 体制整備に関する評価及び改善点</p>	
<p>【実施体制】</p>	<p>評価：捕獲実施場所は登山客の利用があるため、町及び現地団体を初め隣接する振興局と密に連絡調整を行い、安全確保を行い実施した。また、周辺に見張りをつけるなど十分な体制をできていたと考える。</p> <p>改善点：現場が電波圏外や高地である環境であるため、発注者と受注者との連絡体制や捕獲作業の把握など連絡調整体制を確実に構築させる必要がある。</p>
<p>【個体処分】</p>	<p>評価：雨竜沼湿原に接続する道路は登山道のみであり、車両でのアクセスができないことから、湿原で捕獲した個体は解体して荷下ろしてくる必要がある。このことから、食肉としての有効活用に適さないことから一般廃棄物として処分を前提としていた。雨竜町での処分業者は、解体個体は原則受け入れ不可と謳っていたため、業者への説明と調整を行い受け入れについて了承を得ることができ、搬入方法や流れを整理することができた。</p> <p>改善点：今年度事業では、雨竜沼湿原で捕獲した個体は、解体して荷下ろしてくる必要があったことから、一般廃棄物として処分を前提となる。今後、越冬地が特定できた場合は、越冬地で捕獲を実施し、有効活用を検討する。</p>
<p>【環境配慮】</p>	<p>評価：囲いわな設置場所については、希少種や湿原の状況を把握している地元団体へ聞き取りの上、希少種や固有種が少なく設置による踏圧からの回復の早い場所を選定した。また、捕獲地は高所であるが、登山客の利用等があるため捕獲個体は、原則持ち帰りとし、残置は前提としなかった。</p> <p>改善点：当該区域では、同様の配慮を継続する必要がある。</p>

【安全管理】	評価：地域住民や登山利用者への事前周知、近隣振興局及び町への周知依頼、現地入口等での注意看板設置、当日の保安要員配置、及び捕獲従事者の事前打ち合わせ等に加え、狩猟事故防止のため改めて安全確認を行うことで安全管理体制を確保した。
	改善点：湿原内での捕獲は、条件が厳しいため、新たな捕獲手法を試験的に導入する場合は、適宜新たに適切な安全管理体制を構築する必要がある。

3. その他の事項に関する評価及び改善点

当該地域は、周囲を山に囲まれた盆地地形の中に位置し電波圏外であることから、囲いわたの開閉作業は現地の観察ポイントから直接観察して開閉を行った。そのため、湿原内の滞在が必須となり、多くの時間と労力を費やすこととなり、季節的なエゾシカの生息状況からも柔軟なスケジュール変更ができなかった。また、湿原へ登った後、急な天候悪化が原因となり捕獲に支障をきたしていたため、現場に滞在せずに現地の状況（シカの誘引状況や天候等）を把握できる仕組みの導入について検討が必要である。現場で待機せずに囲いわた内の様子がカメラ等で確認でき、遠隔で檻を落とすような仕組みを確立できれば高地での捕獲がより少ない労力で実施可能となり、現地で観察を行う場合でも麓で湿原の状況の確認ができれば、スケジュール変更等の柔軟対応も可能であると考える。

4. 全体評価

今年度当該区域において実施した本事業では、捕獲手法として小型囲いわたと銃猟で実施した。地域との調整において、登山客の安全上、銃猟での捕獲は登山客の利用が終了してから実施する必要があることから、実施できたのが10月上旬とエゾシカが移動を程終了した時期であった。また、囲いわたでの捕獲でも、エゾシカをわたに慣らし期間を設けるため、わた設置後すぐに捕獲を開始することができず、最初の捕獲が9月下旬となった。そのため、目視で確認できたエゾシカの数も少なく捕獲のチャンスも少なかったことから、今後はエゾシカが越冬地へ移動する前に実施する必要がある。

また、今後の雨竜沼湿原の植生保全に係るエゾシカ対策については、湿原での捕獲は、登山客との兼ね合いや捕獲個体の荷下ろしの問題など効率的に実施することは難しいことから、この指定管理鳥獣捕獲等事業を効果的に進めていくためには、まず雨竜沼湿原を利用しているエゾシカを生体捕獲し、GPS首輪を装着させ行動経路を把握する必要があると考える。行動経路を把握し越冬地を特定することで、高所での捕獲ではなく麓で捕獲を行い、雨竜沼湿原を利用するエゾシカの個体数を減少させることが最も効率的であると考える。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

市町村による許可捕獲（有害駆除）等が実施されていない箇所を実施したことにより、生物多様性への影響の軽減、周辺地域の農林業被害及び市街地への出没を軽減させるほか、エゾシカの逃避地を作らせないことによる地域全体の捕獲効率向上を期待している。

今後は、生体捕獲個体へのGPS首輪装着を行い、移動ルートと越冬地を特定するとともに、越冬地での捕獲の実施により効果的かつ効率的なエゾシカ対策の推進を検討していく予定。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ()	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input checked="" type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない

SPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数^{※1}： 22 人日

事前調査人日数概数^{※2}： 2 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 20 人日

項 目	令和 4 年 (事業年度の値)	令和 3 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	22 人日	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数^{※1}： 18 人日

事前調査人日数概数^{※2}： 2 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 16 人日

項 目	令和 4 年 (事業年度の値)	令和 3 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基 ×日数）	48 基日	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項 目	令和 4 年 (事業年度の値)	令和 3 年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	0 頭	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

② 目撃数	4 頭	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③ 雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	0	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④ 幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
<input checked="" type="checkbox"/> 誘引狙撃	0 頭	20 人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟	0 頭	20 人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数/のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数/のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

③ わなによる捕獲

項目	令和4年 (事業年度の値)	令和3年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	0 頭	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
② 雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	0	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③ 幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0	実施なし	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input type="checkbox"/> くくりわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな	0頭	0基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1: わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2: CPUE = 捕獲数 / わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： _____ 人・時間

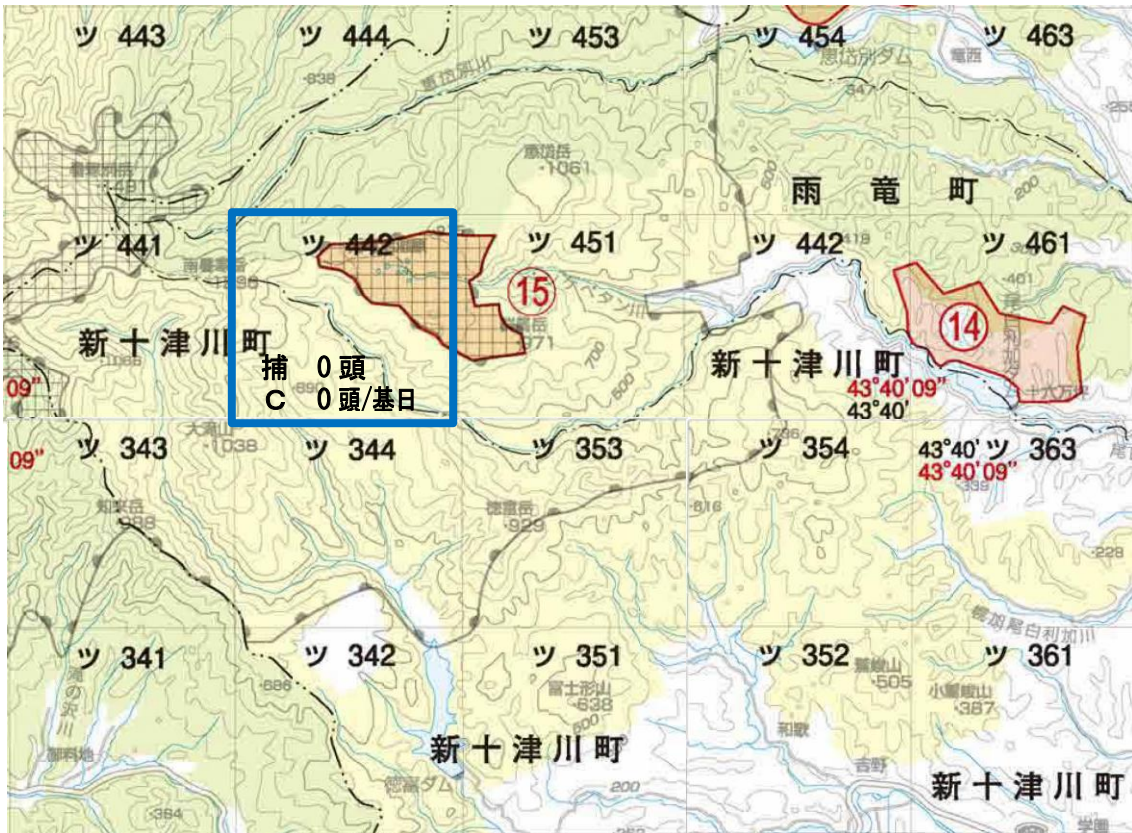
処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： _____ 0 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

実施日時を作業日報に記載するとともに、捕獲個体毎に捕獲個体記録票を作成し、生体で捕獲した個体については、捕獲頭数がわかるように捕獲時の全景に、捕獲情報を記載したホワイトボード等を含めて撮影した写真を添付することとしている。

捕獲した個体の処理については、発注段階から受入予定先を明記し、受託者が有効活用事業者と調整しながら捕獲事業を実施することとしており、納入結果についても報告させている。

基本評価シート4（1）イ）に付随する概況図
（上川・音威子府地域）



北海道「令和4年度（2022年度）鳥獣保護区等位置図」より

【メッシュ番号】

ホ014：わな猟（くくりわな・箱わな）

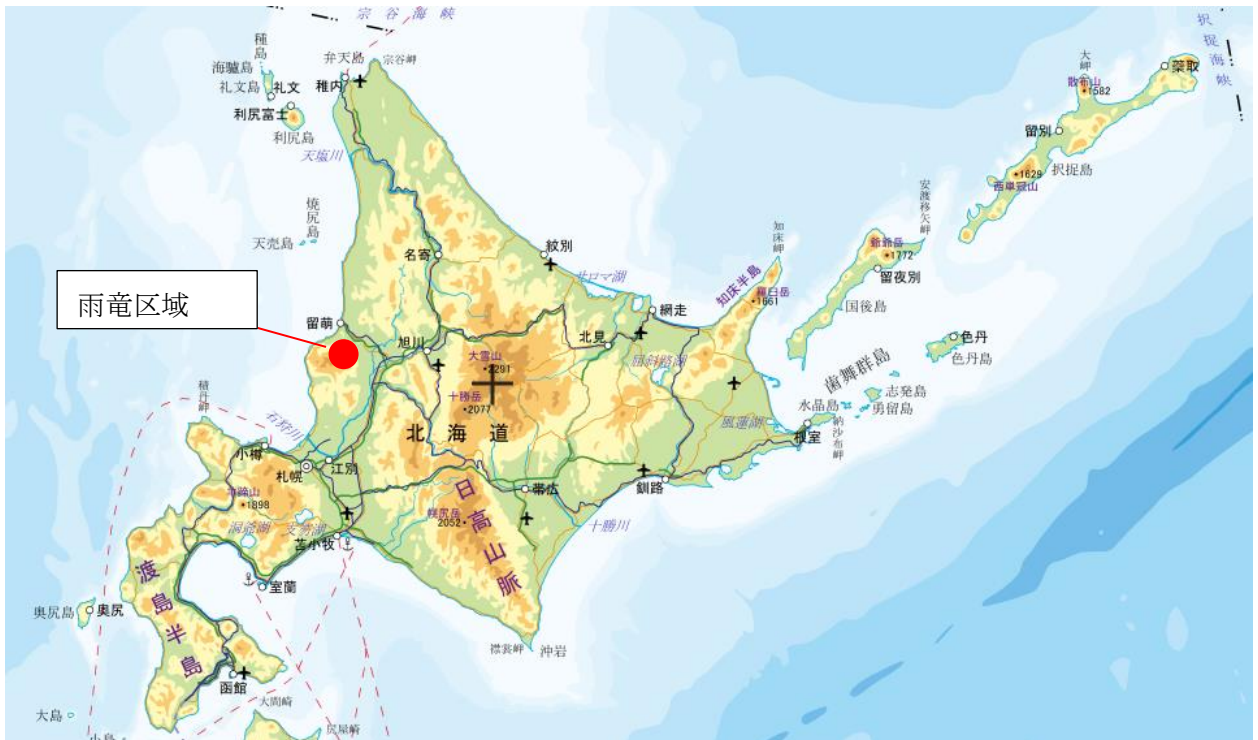
（凡例）

捕：捕獲数

C：CPUE

北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画【雨竜区域】

【位置図】



【区域図】

